


1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	一般財団法人 電力中央研究所 第7実験棟 (仮称)	階数	地上2階、塔屋1階		
建設地	神奈川県横浜須賀市	構造	RC造		
用途地域	工業専用地域、指定無し	平均居住人員	28 人		
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日	2012年11月30日		
敷地面積	4,018 m ²	作成者	株式会社日本設計		
建築面積	1,776 m ²	確認日	2012年12月3日		
延床面積	3,228 m ²	確認者	株式会社日本設計		

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

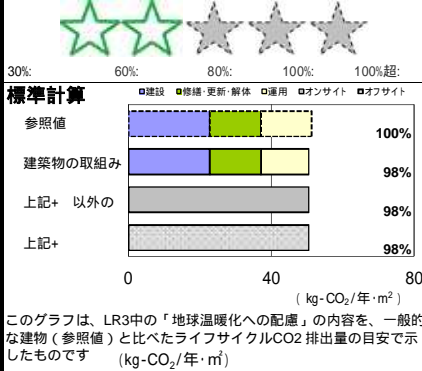


S: A: B+: B: C:

環境品質 Q

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)



標準計算

参考値

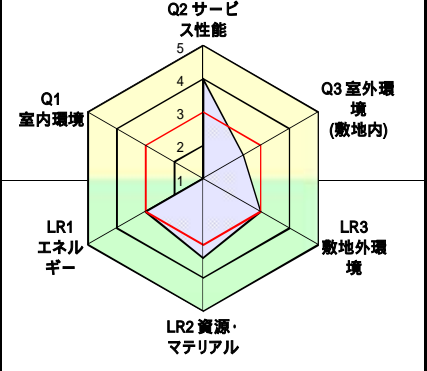
建築物の取組み

上記+ 以外の

上記+

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)



Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

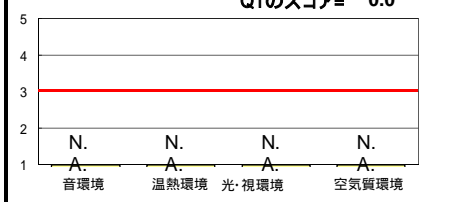
LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

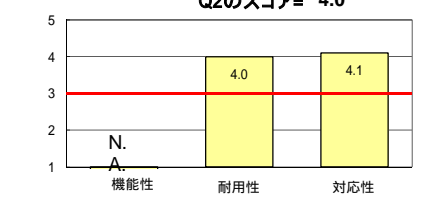


N. A. N. A. N. A. N. A.

音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

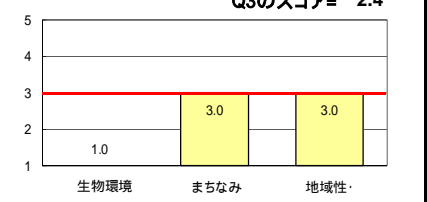


N. A. 4.0 4.1

機能性 耐用性 対応性

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4



1.0 3.0 3.0

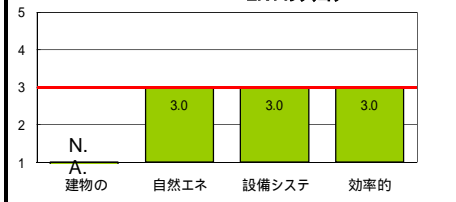
生物環境 まちなみ 地域性

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

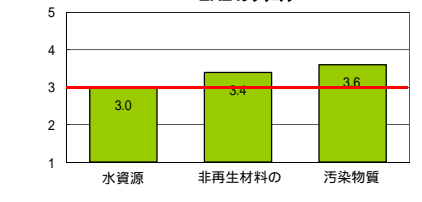


N. A. 3.0 3.0 3.0

建物の 自然エネ 設備システ 効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

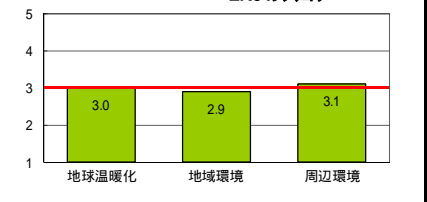


3.0 3.4 3.6

水資源 非再生材料の 汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0



3.0 2.9 3.1

地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
実験性能・条件を満足することを最優先にした構造計画、空調計画、ゾーニング計画を実現する。将来的な研究内容の変更を許容できる冗長性をもった設えを実現する。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
実験機器の稼働環境を考慮し、高効率の空調を行っている。	リザーブドレンや、予備スリーブを設け、将来設置の設備機器の対応する実験室の計画としている。	実験機器からの排熱は、ダクトにより屋上から放熱し、地表面の熱的環境の向上を図っている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明、高効率空冷チラーの採用、新省エネ基準による断熱設計を行っている。	非構造部材にリサイクル材を使用している。	ボンベ庫目隠し壁により、室内照明からの光漏れを低減している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される